

マザーグースを取り入れた歌の活動の一事例

——小学校英語活動における授業実践から——

キーワード： マザーグース、歌、英語活動

石濱 博之

I. 「英語活動」の概要

秋田市立土崎小学校の英語活動は、2000年9月から現在まで継続している。筆者が学級担任と打ち合わせをして、英語活動の話題とその内容を決定した。その後、同僚の Native Speaker of English と言語材料等を含むカリキュラムについて検討する。その結果、表1、表2、表3のような年度ごとの話題になった。具体的に、2000年度は、「あいさつ」、「出会いのあいさつ」、その他「身近な話題（数、色、果物、出身）」を取り扱った。2001年度も同様に、すべての学年を対象として前年度の活動内容を基に話題を決定して、カリキュラムをスパイラルに配列した。2002年度は、2年間の英語活動をした結果、多彩な話題になった。特に、高学年でロールプレイング「ごっこ遊び」を実施した（石濱 2003b）。

学年に関係なく、一連の授業方略は「① あいさつ ② 復習 ③ モデルの提示 ④ オーラル・ワーク ⑤ グループ・ワーク（ペア・ワーク） ⑥ ゲームの活動 ⑦ 歌の活動 ⑧ 発表 ⑨ 別れの言葉」である。英語活動が「楽しく」・「ためになる」・「体験活動」であるために、「オーラル・ワーク」、「グループ・ワーク（ペア・ワーク）」、「ゲームの活動」、及び「歌の活動」は大切な練習活動である。特に、児童が楽しく学習できることを目指して、ゲームや歌の活動を重視している（石濱 2003a）。

このような英語活動の中で歌の活動の一環としてマザーグースを取り入れた。そのマザーグースを活用した成果を記述したい。

表1 2000年度 話題と回数

2000年度		
学年	話題	回数
1学年	あいさつ、出会いのあいさつ、数	5
2学年	あいさつ、出会いのあいさつ、色、数	7
3学年	あいさつ、出会いのあいさつ、果物	5
4学年	あいさつ、出会いのあいさつ	2
5学年	あいさつ、出会いのあいさつ	2
6学年	あいさつ、出会いのあいさつ、出身	4

表2 2001年度 話題と回数

2001年度		
学年	話題	回数
1学年	あいさつ、数、秋のもの（生活科関連）、クリスマス、数、復習	6
2学年	復習、身体、色、一週間、季節、果物、復習	9
3学年	復習、果物、クリスマス、野菜、花、復習	6
4学年	復習、学校名、学年、花、復習	6
5学年	復習、土崎港祭り、天気、数、月、日付、誕生日、レストランごっこ	17
6学年	出身	2

表3 2002年度 話題と回数

2002年度		
学年	話題	回数
1学年	あいさつ、出会いのあいさつ、色、顔、動物	8
2学年	復習、顔、家族	5
3学年	復習、好きな果物、好きな野菜	5
4学年	復習、時刻	6
5学年	復習、年齢、天気、科目、自己紹介	10
6学年	道案内、学校案内、電話の対応（外出、間違い、約束の電話）	18

II. 歌の役割

歌の活動の一環としてマザーグースを導入する前に、その前提条件として歌の意義と効用について述べる。歌は、授業で諸活動の一つとして重要な役割を演じている。

Patricia A. Richard-Amato (1988):

Music, also, reduces anxiety and inhibition in second language students. Furthermore, it is a great motivator in that its lyrics are often fraught with meaningful input. Human emotions are frequently expressed in highly charged situations. Through music, language easily finds roots in the experience of students at any age or proficiency level. Often awareness is heightened through its prosodic elements. Kahlil Gibran once said, "The reality of music is in that vibration that remains in the ear after the singer finishes his song and the player no longer plucks the strings." Music can break down barriers among those who share its rhythms and meaning. Its unifying effect can extend across time, nations, races, and individuals.

Helena Anderson Curtain & Carlo Ann Presola (1988):

Music is one of the most appealing and effective entry points into a new language and culture. When used for background or listening experiences, music from the target culture adds to the authenticity of the language setting. Songs learned in the target language have the double benefit of giving children experience with an important dimension of the target culture and helping them to internalize the vocabulary, rhythms, and structures of the new language.

Songs can play an important role in every unit and every class period. They are most effective when they are an integrated part of the curriculum, selected for their relationship to all of the activities and vocabulary in a class period and not regarded as an add-on, or filler, should there be extra time available.

リチャード・アマト(1988)によれば、音楽もまた、第二言語を学ぶ者の不安や抑制を減らす働きがある。その上、歌詞は意味のあるインプットにあふれているから強い動機付けの役割を果たす。

H. カーテン & C.A.B. ペソラ(1988)は、音楽は新しい文化への導入に最も人気がありかつ効果的なものの一つであり、子どもたちがその国の歌を言語で歌うなら、その国の文化にじかに触れることができ、同時にことば、リズム、文構造を内面化する助けになるという二重の利益をもたらすと主張している。歌の導入の留意点として、歌は各単元、各授業時間で重要な役割を演じる。カリキュラム全体の一部や活動と関連するものを選ぶべきで、単なる付録や残り時間をうめるものであってはならないとしている。

伊藤ら(2000)によれば、音声教材としての「歌」は、子どもたちが楽しく歌えるように、目的に合わせて選曲する。歌えるようになるまでの過程を大事にして工夫することが大切である。導入時キーとなる語彙またはイメージに対して実物や絵などの視覚的要素を利用することも大事である。

歌の活動をする際に、筆者は次の6つの点(表4)に留意している。

表4 歌の留意点

- | |
|----------------------|
| 1. 目的に応じた歌の選択 |
| 2. 歌詞の反復の多い歌の選択 |
| 3. 数回の授業で同じ歌の利用 |
| 4. 歌に「動作」や「振りつけ」をつける |
| 5. 替え歌の採用 |
| 6. ゲームと歌の活動との組み合わせ |

歌の内容に基づいて種類を考慮する場合、表5のように「場面を重視した歌」と「話題に関連する歌」を考え、目的に応じた歌の選択をする。例えば、あいさつの歌は授業の開始や終了を示す合図ともなる。場面を盛り上げる歌は場面を変えるためとか、雰囲気を変えるために使う歌である。話題に関連する歌は、動物・色・果物の概念を示す歌で目標を支える歌である(石濱 1999)。

表5 歌の種類

歌の種類	内容
場面を設定・盛り上げる歌	あいさつの歌・雰囲気を盛り上げる歌
話題に関連する歌	色・数・動物・果物・時計の概念を示す歌

歌を選択する考え方に基づいて歌の活動を決定した。そして、子どもの反応から英語活動における歌の効用について、筆者(2001)は以下の2点にまとめた。

- (1) 歌の活動に関して、子どもは「おもしろい」とみなす傾向にある。
- (2) 高学年になれば、「振りつけ」や「踊り」を伴った「歌」を好まない傾向にある。

III. 歌の活動にマザーグースを導入

1. ねらいと方法

マザーグースを導入することは、「リズム、イントネーションの体得」や「正しい発音の習得」によいとされている。藤野(1992)は、マザーグースを教材として効果的に使うには、(1)学習者のレベルや授業の内容を十分に考慮して上で、適当な歌を選ぶこと、(2)まず理屈抜きで繰り返し聞かせ(もちろんテープで)、暗記させ、暗唱させることである、と指摘している。

話題に関連する歌を採用する場合、筆者はマザーグースは適切であるとみなした。マザーグースで

使われている「ことば」には歌詞の反復が多い(表4(2))と判断したからである。

実際に授業を展開していくと、1回の英語活動の中であいさつの歌や話題に関連する歌や雰囲気盛り上げる歌を2曲以上取り扱うこととなった。その際、子どもが初めて接する歌については、次の指導方略で行う。

- (1) モデルの提示→筆者らがテープ(曲)にあわせて、モデルを提示する。
- (2) 内容の説明→簡単に子どもがわかることばで歌の説明をする。
- (3) ことばの練習→同僚の Native Speaker of English が言う「ことば」を繰り返させる。
- (4) 動作の練習→筆者らが「ことば」に合わせて1つの動作の例を示す。
- (5) 歌と動作→テープに合わせて動作を伴いながら歌う。

ただし、同じ歌は数回の英語活動で取り扱う。可能な限り繰り返して聞かせ、暗記させ、暗唱させたいからである。

マザーグースに関する教材を選択する場合、すべてのテキストには模範とする振りつけ・動作なども掲載されている教材を選ぶ。付属にCDなどもついている¹⁾。

2. 歌の教材としてのマザーグース

2000年度、2001年度、及び2002年度にマザーグースを取り扱った事例は、表6のとおりである。指導方略どおりに動作を伴いながらマザーグースを歌わせた。

表6 マザーグース導入の事例

項目	マザーグースの歌	年度・学年
1. 季節	Twinkle, Twinkle, Little Star	2001年度・1学年
2. 食べ物	Hot Cross Buns	2001年度・6学年
3. 輪になって動作	Ring-A-Ring O' Roses	2002年度・2学年
4. 時刻	Hickory, Dickory, Dock	2002年度・4学年
5. 天気	Rain, Rain, Go Away	2002年度・5学年
6. その他	London Bridge ゲームの活動との併用 例えば、爆弾ゲーム など	低学年用・中学年用

歌の教材としてマザーグースを取り入れる場合、表5に基づいて「場面を設定・盛り上げる歌」としてのマザーグースと「話題に関連する歌」としてのマザーグースに分類した。

「場面を設定・盛り上げる歌」としてのマザーグースは、輪になって動作をする“Ring-A-Ring O' Roses”や“London Bridge”である。表6の「その他」のように、マザーグースの歌を「ゲームの活動との併用」として使う場合もある。例えば、爆弾ゲームは、子どもが「爆弾」のようなものを時計回りに渡す。その際、テープレコーダー等を使って歌を流す。一人の教師が歌を止める。歌が止まったところで爆弾を持っている子どもが、教師の質問に答えるゲームである。そのゲームでは、“London Bridge”などの歌を使用している。特に、爆弾ゲームは、低学年・中学年に人気のあるゲームの一つである。

「話題に関連する歌」としてのマザーグースは、おのおのねらいがある。“Twinkle, Twinkle, Little Star”は七夕が近づいた時期に採用した。「星」に関連する歌として適切であると判断した。“Hot Cross Buns”は「レストランごっこ」で食べ物に関連する歌として取り上げた。「時」に関連する歌は“Hickory, Dickory, Dock”である。“Rain, Rain, Go Away”は、「雨、雨、いなくなれ」という感覚で天候に関連する歌として採用した。

写真1は、子どもが実際に動作をしながらマザーグースを歌っている様子である。時刻の話題で、

子どもが目標文 “What time is it?—It’s nine o’clock”. である言語材料をわかるようにオーラル・ワークなどで練習する。目標文を表現するゲームも実施した。それと同時に「時」に関連する “Hickory, Dickory, Dock” を扱った。振りつけは、市販のテキストに提示されているので、子どもに歌の内容と共に動作も提示した。



写真1 マザーグースを歌っている様子

3. まとめ

今回の限られた実践で歌の活動の一環としてマザーグースを導入することについてまとめる。

(1) 「場面を設定・盛り上げる歌」や「話題に関連する歌」としてマザーグースを採用してもよい。それは「英語に親しむ」というねらいにつながる。歌の活動の中で、子どもは動作を伴いながら積極的にマザーグースを歌う。動作が意味を表し内容を把握しやすい。例えば、話題に関連するマザーグースだった場合、話題のねらいがより明確になる。

(2) 子どもが「日本のわらべ歌みたい」と感想を述べるように、外国の文化を提示する上で使ってもよいだろう。国際理解の一環としての英語活動、あるいは異文化理解教育に役立つであろう。ただし、藤野(1992)が指摘しているように、古くから伝承されたものであることや押韻のためあって、古い用法(古語、方言、古い文法など)も残っていることは留意したい。このことは、同様に、『小学校英語活動実践の手引』(2001)でも、伝承歌には現在では使われない英語も多いので注意する必要があると指摘されている。

IV. 示唆と今後の課題

授業の中で「話題に関連する歌」や “Ring-A-Ring O’Roses” や “London Bridge” の使い方のように「場面を設定・盛り上げる歌」としてマザーグースを採用してもよいだろう。特に、低学年や中学年では、子どもは動作を伴いながら意欲的に歌の活動をする。そして、学習者のレベルや授業の内容を

十分に考慮して上で、適当な歌を選ぶことが大切である。マザーグースの歌は、繰り返しが多い。そうであるから、子どもが無意識にマザーグースを口ずさむようになる。

子どもの発達の視点から年齢・学年に応じた歌の内容を考慮することも必要である。英語活動で使用可能なマザーグースを多く採用するためには、年齢・学年に応じた歌の教材としてのマザーグース、即ち、教育用にマザーグースを分類する必要があるだろう。

注

- 1) 歌の活動でマザーグースを導入する際、次のテキストを参考にした。
阿部恵子(編). 1994. 『Let's Sing Together』東京: アプリコット.
Kiddy CAT(編). 2000. 『うたおうマザーグース 上・下』東京: アルク.
渡邊寛治(監修). 2001. 『英語 de ハロー』東京: 新学社.
MLS. 2002. 『楽しい英語の授業マニュアル』東京: The Japan Times.

参考文献

- Curtain, Helena Anderson & Carlo Ann Presola. 1988. *Language and Children-Making the Match*. Addison-Wesley Publishing Company, Inc, pp. 264-266. 伊藤克敏ほか訳. 1999. 『児童外国語教育ハンドブック』東京: 大修館書店.]
- 藤野紀男. 1987. 『マザーグース案内』東京: 大修館書店.
_____. 1989. 『名作マザーグース 70 選』東京: 三友社出版.
_____. 1992. 「ライム (マザーグースなど) を利用した指導(1)」『ECOLA 早期英語教育』東京: ニチブン, pp.256-262.
- 石濱博之. 1999. 「『楽しさ』を求めて: 効果的なゲームと歌の活動をとおして」『英語教育』第 48 巻 8 号, pp.23-25.
_____. 2001. 「小学校英語活動における歌の役割についての事例研究—実際の活動と子どもの反応から—」『日本教材学会教材学研究』第 12 巻, pp.106-108.
_____. 2003a. 「秋田市立土崎小学校の英語活動に関する実践的研究—3 年間のカリキュラム開発とその運用について—」『平成 13 年度～平成 14 年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)(2)) 研究成果報告書 (研究代表者: 松川禮子) タイトル『『総合的な学習の時間』における国際理解・外国語会話のカリキュラム評価に関する研究』(課題番号 13580233) , pp.53-93.
_____. 2003b. 「公立小学校における『レストランごっこ』を主体にした英語活動に関する授業実践—『ごっこ遊び』は子どもの主体的な活動を促すか—」『日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要』第 22 号, pp.137-152.
- 石嶋妙子. 1992. 「ライム (マザーグースなど) を利用した指導(2)」『ECOLA 早期英語教育』東京: ニチブン, pp.263-268.
- 伊藤嘉一編著. 2000. 『小学校英語学習レディゴー』東京: ぎょうせい.
松川禮子. 1997. 『小学校に英語がやってきた』東京: アプリコット.
文部科学省. 2001. 『小学校英語活動実践の手引』東京: 開隆堂.
- Richard-Amato, Patricia A.. 1988. *Making It Happen: Interaction in the Second Language Classroom From Theory to Practice*. New York & London: Longman, 1988. [渡辺時夫ほか訳. 1993. 『英語教育のスタイル インプットからインタラクションへ』東京: 研究社出版.]